

日本大学 桜樹会会報

第 6 号

昭和47年 2月

日本大学 桜樹会

目 次

指導者の条件	監督 遠藤 幸雄	1
全日本選手権成績		2
新人戦成績		2
責務を終えて	前体操部総務 菅野 秀俊	3
抱 負	男子主将 五十嵐健夫	4
	女子主将 河内余志子	4
	総務 外山 宣芳	4
親睦会あれこれ		5
ブロック幹事からの便り	中国ブロック 常井 晴道	6
お知らせ		7
会費領収について		7
体操部の歌		8
編集後記		10

指導者の条件

監督 遠藤 幸雄

何らかの目的をもった組織体ならば、当然その長に立つ人は組織をリードしなければならない。

家庭や職場、スポーツクラブにおいても、上に立つ人物の人間性により、配下の人たちが十分に力を発揮できるか否かが決定されるといって過言ではない。

それでは、いろいろ考えられる条件のうち、二つをとり挙げてみたいと思う。

第一に、信念と愛情とで行動することである。一たん心に決めたことは、綿密な計画のもとに、最後までやり遂げようとする絶対の信念がなくては、部下を励ますこともできないだろうし、力をあたえ、安心を与えることも不可能である。また、部下の言葉に、一々顔色を変えたり、心を動揺させておいては、上に立つものとしての器ではない。

第二としては、約束を守ることを挙げたい。約束を破ることによって、相手に対し信用を

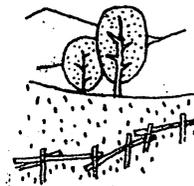
失墜することはもちろんであるが、部下との約束を平気で破るようでは、部下の志気どころか和を失うことにもなる。

人との約束を守るためには、不断の努力を必要とし、場合によっては、相当な覚悟を強いられることもあろう。しかし、追いつめられてファイトが湧くという人もいる。これなどは真の強さといえるかもしれない。

今年のインターカレッジにおいては、学生諸君の努力により、久しぶりに興奮した。勝負を考えずとも、チャンスを与えられたものにとっては、貴重な体験だったと思う。

今年も四月から30余名が、新しく桜樹会のメンバーにお世話になりますが、よき社会人として、またよき体育人として後輩の指導に専念することを祈らずにはいられない。それが、桜樹会並びに日本大学体操部の発展に直結するものと確信するものです。

47. 1. 29



第25回 全日本選手権成績

山梨県甲府市

4.6.1.12.0~2.3

〔男子〕

団体総合	4位	日本大学	512.60
個人総合	7位	高橋正典	108.8125
	16位	中谷秀明	106.4750
	20位	早田卓次	105.5875

種目別 鉄棒 2位 高橋 9.20

〔女子〕

団体総合	2位	日本大学	
個人総合	9位	矢部信恵	70.075
	11位	小宮由美子	69.050
	13位	稲谷清子	68.850
	15位	林田房美	68.500
	20位	長岡久美子	67.700

種目別	跳馬	4位	林田
	平均台	5位	小宮

昭和46年度 新人戦成績

東京・駒沢体育館

4.6.1.12.7~2.8

〔男子〕

団体総合	2位	日本大学	265.45
個人総合	3位	西巻洋一	54.65
	7位	錦井利臣	53.60
	9位	種本茂之	52.95
種目別	あん馬	3位	椎名厚 9.10
	つり輪	5位	西巻 9.00
		"	種本 9.00
	平行棒	5位	西巻 9.20

平行棒 5位 種本 9.20

鉄棒 1位 西巻 9.30

〔女子〕

団体総合	1位	日本大学	172.95
個人総合	1位	林田房美	36.90
	3位	今成洋子	36.70
	5位	田村君子	36.60
	10位	平島宗子	33.65
種目別	ゆか	1位	林田 9.35
		3位	田村 8.80
		5位	平島 8.65
	平行棒	1位	林田 9.45
		4位	今成 9.05
		"	田村 9.05

平均台 2位 林田 9.05
5位 今成 8.75
跳馬 1位 林田 9.05

跳馬 3位 今成 8.90
5位 平島 8.80
6位 渡辺和子 8.75

責務を終えて

前体操部総務 菅野秀俊

早いものです。私が総務となって、もう4年が過ぎようとしています。いま思えば、早いような遅いような、今は大任を果たした安心感とともに、不安感とが交互している現在です。4年間のうちには、いろいろなことがありました。いま思えば、合宿所での生活、千葉での合宿、また、一試合一試合が苦しかったこと、楽しかったこととして思いだされます。4年間において、いろいろの試合がありました。昨年46年度のインカレでは、私が総務となって、一番自慢できることだと思います。この時ほど、自分は総務となつてつくづくよかったと思ったことはありません。

このよるこびは、総務になったものでなくては味わえないものだと思います。あの感動を後輩の方々にもぜひ味わってもらいたいと思います。私が後輩の方々に望むことは、先輩の良いところは吸収し、悪いところは、改めて、部のチームワークを整えてもらいたいということです。また、良いチームワークの中で、良きライバルとしてがんばってもらいたいと思います。

最後に、この紙面をかりまして、諸先生方、諸先輩には、十分にゆきとどかなかつたことをおわび申し上げます。また、多大なご協力を心から感謝いたします。

「抱 負」

男子主将 五十嵐 健 夫

早春の候、未だ寒さの残る折、諸先輩方もお仕事でお忙がしいことと思います。

春季合宿は、諸先生方のお骨折りで、本年も千葉県銚子市で行なうことになり、期日も、3月13～18日と決りました。

現在、部員一同、合宿に望まんと練習に励んでおります。

昨年は、インカレ2位、しかも、0.4の小差で涙をのみました。しかし、その涙は悔し涙でなく、好試合のために流された涙であっ

たろうと思います。今年は、昨年のメンバーが大部分入れ換えになり、かなり苦しい年となりそうです。

しかし、今日まで、諸先輩が築かれた日本大学体操部の伝統というものを、部員各自が胸に秘め、皆が一丸となり、ひとつひとつの試合を大切にしていきたいと思います。

最後に、今までと変りませず、ご指導、ご鞭撻のほどをお願いいたします。

女子主将 河 内 余志子

今度新しく女子キャプテンになりました河内です。よろしくをお願いいたします。

昨年は、先生方はじめ、先輩の方々には、いろいろとお世話になりました、厚くお礼申

上げます。本年も悔いのないように、できる限りがんばりたいと思います。

これからも、ご指導下さいますようお願い申し上げます。

総務 外 山 宣 芳

寒さも柔らぎ、練習にも一段と身の入る季節となりました。

本年は、ミュンヘンオリンピックの年でもあります、わが日本大学体操部にも、きわめて重

大な年になりそうです。

昨年0.4差で優勝を逃したインカレですが、今年もあの時の根性でがんばってもらいたいと思っております。

そして自分は、その選手を引き上げていく
ようなマネージャーになりたいと考えており
ます。これからは、今以上にやらねばなら
ぬ仕事があると思いますが、とにかく、選手

や、他の人達に迷惑のかからぬよう、スムー
ズに仕事を処理していく考えです。

諸先輩、よろしくおねがいたします。



親睦会あれこれ

第5回ハゼ釣り大会 46.10.3 東京湾
〔参加者〕 門脇 稲橋 石井 岩本 堀田
平川 芳尾 早田 高田 菊地
鶴見 中原 朝倉 津村 中野
門脇重男

恒例のハゼ釣りが、昨年のオデコにもめげ
ず、今年もまた、16名の参加者を得て行なわ
れた。今年の釣果は1人40～50匹と、
昨年とは大変な違いであった。中にはすっか
りでき上って、釣りなどどうでもという人も
いたが、例年通り楽しい釣行であった。

第8回忘年会 46.12.4～5 洲の崎
〔参加者〕 稲橋 石井 早田 菊地 磯部
鶴見 中原 岩沢 岩田 小柴
朝倉 高波 大原

今年は、参加申し込みが25名ほどあった
ので、久しぶりに盛会になると思われたが、

当日洲の崎に集ったのは13名。暮を控えて
それぞれ忙がしい時期だけにやむを得ないが、
残念なことであった。しかし、人数の多少に
かゝらず、例によって例の如く、浮き世を忘
れ、年を忘れ、旧交を暖めた次第である。

第2回桜樹スキースクール

47.1.3～5 志賀高原

〔参加者〕 稲橋 堀田 平川 菊地 鶴見
小柴 中原 船木 朝倉 今村
早川 常井 井上(靖) 箱根
工藤(昌) 原 伊原 桑島
神崎

4年生3名 会員外参加7名

昨年続き、第2回桜樹スキースクールが
開催された。参加者は上記の通り、会員外の
特別参加もあり、昨年の倍近い29名が参加
し、盛況であった。

2日目には、指導に当たっていた朝倉君が、リ
フトの鉄柱に激突し心配されたが、幸い左足

打撲だけですみ、不幸中の幸いであった。
本年の参加者をみると、速く岡山から駆けつけた常井君はじめ、兵庫の小柴、井上の両君、大阪の神崎さん姉弟など、かなり広範囲な地域からの参加が目立った。

また、年代的にも、稲橋会長以下、現役の4年生まで各年代にわたっており、その点でも、このスキースクールの成果があったものと考えられる。

特筆すべきは、新婚ホヤホヤの鶴見君が、愛妻雅子夫人を伴って参加したことであろう。

アツアツムードに、デレンデの雪もとけかねない感じだったが、このようなムードこそ、このスキースクールの目指す姿であるとも言える。夫婦そろって、あるいは子供を連れて、昔の仲間とスキーを楽しむ。将来こうあってほしいものである。今年は、会員以外の方達も、我々と一緒になって楽しんで貰ったと思う。年々参加者が増加することを考えて、それぞれのポジションを定め、スキースクールとしての体制も整えていきたいと考えている。



ブロック幹事からの便り

中国ブロック 常井 晴道

(43年文理卒)
岡山日大高校
勤務

私がこうして、桜樹会報で、会員の皆様に便りすることに、自分の怠慢さを恥じながら筆を取っております。

私が卒業して早や4年が過ぎようとしておりますが、先輩や後輩の皆様には、自分の困った時ばかり無理をお願いして、桜樹会員としては何ひとつとして責任を果たしておりません。この場をおかりしてお詫び申し上げます。

皆様もご存知の通り、1月3日から5日まで、志賀高原で、桜樹会のスキー教室が開かれ

れましたが、それに、神戸の小柴先輩と井上君と3人で1台の車に乗り込み、志賀高原に行けば、平素会えない人達に会えることを楽しみに、車に15時間揺られました。その時の疲労は、現地に着いて多くの人達に歓迎された時、吹きとんでしまいました。

あゝ、来てよかったなあ……………。
地方に居る私には、一度に多くの思い出の人
に会えた喜びは、一口には言えません。

それからの現地での毎日は、大いに滑り、

大いに飲み、大いに語り、非常に楽しい思い出を残すことができました。

帰りは時間を制限されないで、長野で非常に寒い映画館にビールを持ち込み、長野のポルノを真剣に勉強もしました。

今年参加されなかった皆様には、長野のポルノはあまりお勧めできませんが、来年度はぜひ参加して戴き、より一層の桜樹会の発展

を共に喜びたいと思っております。

ともすれば桜樹会員であることを忘れがちで、総務の方に任せきりの無責任な私ではありますが、桜樹会の集りがありましたら、今後もできるだけ参加し、皆様と共に語りたいと思っております。

最後に、皆様方のご健康と、ご発展を心から祈りいたします。

お知らせ

昭和46年度会員総会を下記により開催いたします。総会終了後、例年通り親睦会も予定しております。万障お繰り合せの上、ぜひご出席下さいませようお願い申し上げます。尚、会則によれば、3月第3日曜日（本年は3月19日）が開催期日となっておりますが、3月17日～19日まで体協主催の審判講習会が行なわれますので、幹事会に計り、総会開催期日を一週間延期いたしましたのでご了承下さい。

返信は3月20日迄にお願いいたします。

記

日時 昭和47年3月26日(日)午後1時より

場所 日本体育協会 503号室
(国電 原宿駅下車)

親睦会会費 500円

会費領収について

46年9月11日以降、47年2月20日現在までの納入状況です。

現金にて

46.11.18	伊原 修	1000
12.16	大野登利光	2000

口座にて

46.10.6	原 弘吉	1000
10.11	網島 路正	1000
10.12	古賀 和彦	3000
10.13	石井 征也	1000
10.19	山内 悟	1000
11.2	武本 好文	1000
11.2	菅原真紀男	1000

“体操部の歌”

(仮称)

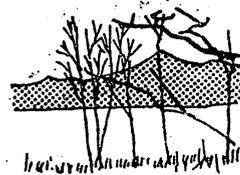
わが桜樹会員は、機会あるごとに酒をくみかわしながら、昔話に花を咲かせる。そんな集いの折、副会長の堀田氏より紹介されたのが、この「体操部の歌」(仮称)である。出身高校の体操部の後輩が作詞作曲したものだそうである。体操部に限らず、運動部を経験したものなら、卒業して、ふとこんな感傷にひたる時があるのではないだろうか。以来、親睦会などの席で必ずといっていいほどの歌が歌われてきている。今では、すっかり、桜樹会の歌の観があり、かなり多くの人達に知られるようになったが、地方などにおいて、そのような機会に恵まれない人達にも知って戴こうと、楽譜を添えて掲載する次第である。

心に残る歌として、皆様に愛唱されることを願うものである。

体操部の歌

(仮称)

いつの日か 学舎をはなれ
いつの間にか ひとり生きる
そんなある日 ふと思い出す
なつかしい タンマのにおい
なつかしい 汗によごれたマット
そこで育まれた 大切な何かが
今も心に 残っている
いつまでも 忘れない
体操部の心
いつまでも 忘れない
体操部の心



C Dm G7 C
 い つ の ひ か ま な び や を は な れ

C Dm G7 C
 い つ の ま に か み し ら ぬ ば し で ひ と り い き る

C Dm G7 C
 そ ん な あ る ひ ふ と お も い だ す

C Dm G7 C
 な つ か し い タ ン マ の に お い

C Dm G7 C
 な つ か し い あ せ に ま み れ た マ ッ ト

C Dm G7 C
 そ こ で は ぐ ぐ ま れ た た い せ つ な な に か が

C Dm G7 C
 い ま も こ こ ろ に の こ っ て い る

C Dm G7 C
 い つ ま で も わ す れ な い

C Dm G7 C
 た い そ う ぶ の こ こ ろ

C Dm G7 C
 い つ ま で も わ す れ な い

C Dm G7 C
 た い そ う ぶ の こ こ ろ

さくし, さっきょく こむろひとし

編 集 後 記

前年度総会の席上、稲橋会長から次のような意見が出されている。(会報第4号P.3)
「音信不通の会員については、幹事会で除名ということも検討されている。本年度は実施をみおくるが、考慮しなければならない時期にきているので、同期生間で呼びかけて、本会との連絡を密にしてほしい。」というものである。

今回、この会報編集と並行して、会員名簿の作成に当たったが、住所不明者が相変らず相当数であったことは実に残念なことである。部に関係しておられる先生方への暑中見舞や年賀状なども手掛りのひとつとして、原簿を赤ペンで染めているが、それでもなお、転居先不明で送り返される郵便物はあとを断たな

い。せめて、どこで、何をしているかぐらいは知らせてほしいものである。

今年度の総会でも問題になると思うが、200名を越える現況を考え、何らかの形で、入会を制限すべき時期にきているのかもしれない。

尚、同じ前年度の総会で、会報は年3回、4.8.12月に発刊するということが決められているが、46年度は、本号を含めて3回目の発刊ということで回数合っているが、時的にはかなりのずれをだしてしまった。当方の怠慢で一言もないのだが、毎回記事不足に悩まされ、スムーズな発刊ができず、このような結果になってしまったとも言える。この点でも、会員皆様のご協力を、切にお願いする次第である。